

こども支援部会 活動テーマ

「切れ目のない支援を行うために」

平成26年度 活動目標

「サポートブックの完成および運用」

活動内容

1. 「障がいや発達に心配のある子ども達のライフステージに応じた支援機関の一覧」の作成

<目的>

障がいや発達に心配のある子ども達に関わる学校の先生や関係機関の支援者が、より良い支援のために連携しやすくする。

<内容>

平成24年度に作成した一覧（A3両面）に掲載の関係機関への内容変更確認および新規の関係機関追加し印刷。掲載関係機関への配布および、その他関係機関へ連携目的の啓発時の配布、サポートブックへの挟み込みにて保護者への配布。

2. サポートブックの有効活用について各関係機関への啓発

<目的>

平成23年度～24年度は、支援者間の連携強化を目的に、地域の小・中学校の特別支援学級の先生方やコーディネーターの先生方に対して、福祉との連携の必要性と福祉政策を理解してもらうことを目的として会議の場に出向き啓発した。

また、平成25年度はこども支援部会へ研修会の講師依頼があり、コーディネーター研修会（第3ブロック研修会）と特別支援学級担当者会の夏の研修講師として時間・内容を拡大して啓発をした。

平成26年度は、連携が強化されよりよい支援につながるよう平成26年11月に完成したサポートブックが、連携ツールとして効果的に運用されるように、目的・使い方の説明を中心に各支援者へ啓発した。

<支援者啓発先等>

	対象者	日時	場所	対象人数（申し込み人数等）
1	生駒市小・中学校校長会	H26. 6. 3(火) 11時～ 5分程度	コミュニティーセンター	小学校 12 中学校 8
2	公立幼保園長会	〃 6. 5(木) 14時～ 15分程度	〃	保育園 4 幼稚園 9
3	公立私立保育園主任会	〃 6. 26(木) 15時半～ 20分程度	〃	公立 4 私立 13

	対象者	日時	場所	対象人数（申し込み人数等）
4	コーディネーター 研修会（第3ブロッ ク研修会）	〃 8.1(金) 10時～12時	教育支援施設エル	<生駒市>50 教育委員会 3 幼稚園 13 保育園 4 小学校 24 中学校 6 <市外>22 教育委員会 2 幼稚園 4 小学校 12 中学校 3 高校 1
5	奈良西養護学校進 路主催研修会	〃 8.5(火) 13時半～ 1～1時間半程度	奈良西養護学校	奈良西養護学校教諭 約100名のうち70名程度
6	特別支援学級担当 者会 夏季研修	〃 8.7(木)	セラビーいこま (メディカル棟会 議室他)	25名
7	奈良養護学校研修 会	〃 10.30(木)	奈良養護学校	対象：奈良養護学校全教員のう ち、約80名参加
8	関係機関（教育分野 を除く）支援者向け 説明会および勉強 会	〃 12.2(火) 9:30～12:00	セラビーいこまメ ディカル棟3階	案内・・・生駒市のこどもを支援 している医療（訓練含 む）・保健・福祉関係機関 67ヶ所 当日・・・23ヶ所 34名参加 (部会メンバー除く)
9	特別支援学級担当 者会議	〃 12.4(木) (完成報告と配布)	南コミセンせせら ぎ	市内公立各小・中学校、奈良養護 学校、奈良西養護学校
10	その他 各支援先等	〃 12月～	No9の説明会欠席 の関係機関（病 院・福祉サービス 提供事業所・行政 等）	個別に関係機関へ完成したサポ ートブックの目的・使用方法を説 明する
11	出前事業 (教育指導課主催)	H27.3.2(月) 15:30～16:30	あすか野小学校 (全教員)	45名

※第3ブロック研修会とは、生駒市コーディネーター研修会が企画する夏の研修であり、第3ブロック（生駒市・三郷町・平群町・斑鳩町・安堵町）が対象の研修。

平成26年度は、保育園保育士へも門戸を広げている。



写真：平成26年12月2日 関係機関（教育分野を除く）支援者向け説明会および勉強会

3. 保護者へのサポートブックの配布及び利用についての説明会の開催

障がいや発達に不安がある子ども達のよりよい生活を支えるためには、関係機関が情報を共有し連携すること、切れ目なく支援をすることが重要である。特に子ども時代は就園・進学・進級等ライフステージがめまぐるしく変化し、放課後・長期休暇等の福祉サービスの利用等を含め、家庭以外で過ごす場や関わる支援者が多岐に渡ることが多く、保護者はその度に支援者に子どものことを伝える必要があり、その負担は大きい。

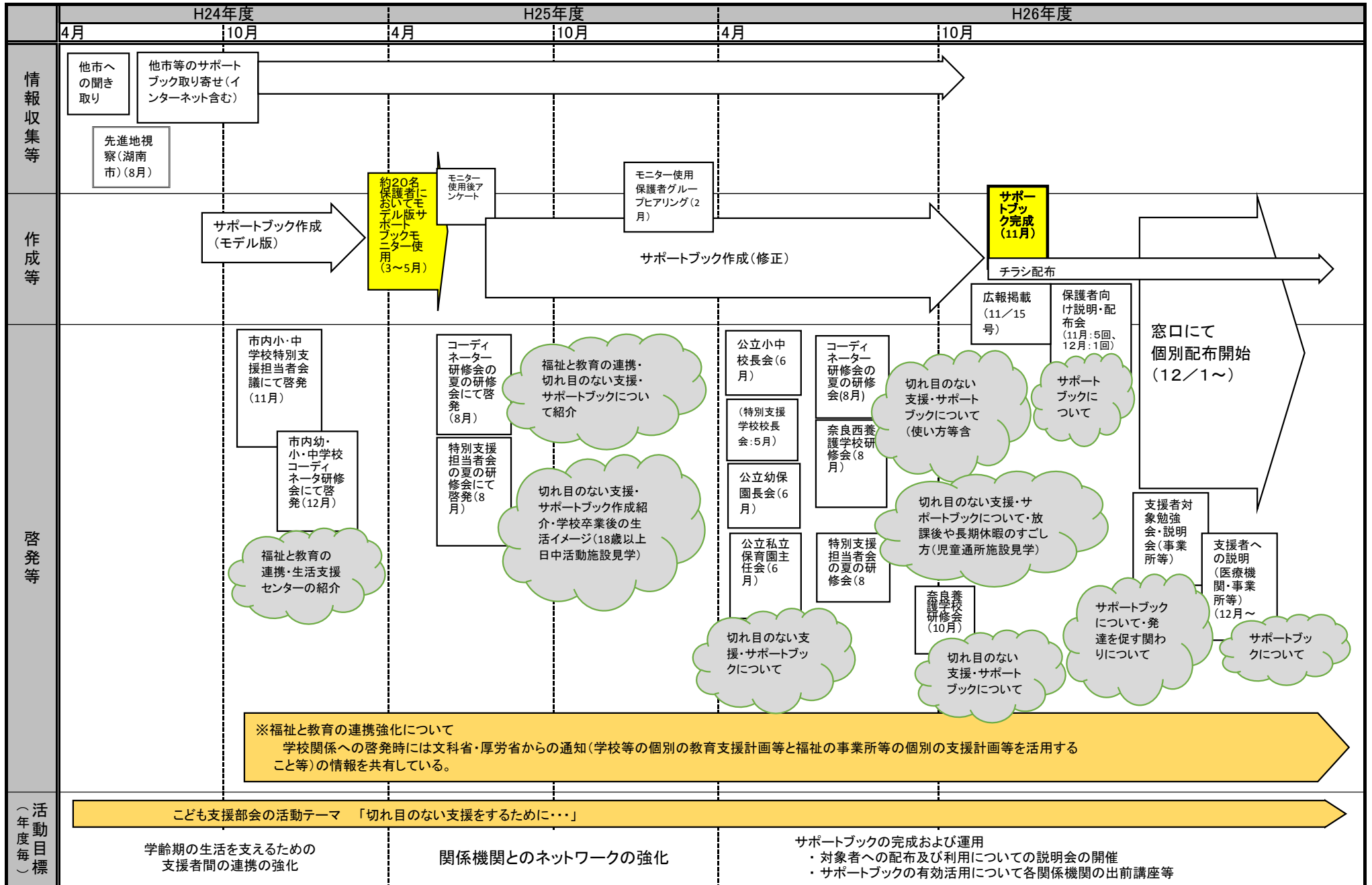
このことから、保護者と共にライフステージを通じて関係機関が、さらに連携を強め情報の面から支えていく取り組みとして、サポートブック活用の必要性を感じ平成24年度に先進地を視察した。そこで、運用することの難しさを知り、当市では効果的な運用に向けての基盤作りをしながら2年の歳月をかけて平成26年11月に「サポートブックいこま“たけまるノート”」が完成した。“たけまるノート”を多くの保護者に効果的に活用してもらうために、個別に説明して配布する他、説明会を開催し、平成26年度は合計101冊を配布した。

別紙「平成26年度 たけまるノート配布等状況」参照

来年度の活動方針

こども支援部会の活動テーマを基本とし、①研修実施（顔の見える関係に向け主として横の連携強化を目的としたもの）②たけまるノート運用の追跡（保護者アンケート・支援者ヒアリング等）③重心児の就学に向けての連携について関係者が集まりシステム作りの検討をする。

平成24年度～平成26年度(12月配布まで) サポートブックいこま たけまるノート作成・運用にかかる経緯 (生駒市障がい者地域自立支援協議会こども支援部会の活動より)



平成26年度 たけまるノート配布等状況

(平成26年秋 配布開始 ～ 平成27年3月31日)

配布冊数 計 101 冊

◆ 配布場所：11月21日保護者（小学校以上）説明会（コミセン）（計18冊）

- ・ 午前の部 12冊（うち2冊は兄弟分…幼稚園5歳児2）
【内訳：小1（通常学級1、西養護3）、小2（西養護2）、小3（通常学級1）、小5（通常学級2）、小6（西養護1）】
- ・ 午後の部 6冊（うち1冊は兄弟分…保育園4歳児1）
【内訳：小1（通常学級1）、小2（西養護1）、小3（西養護1）、小4（通常学級1）、小5（通常学級1）】

◆ 配布場所：生活支援センターあすなる1（計62冊）

集団説明会・配布会 計40冊

- ・ 11月20日 くまグループ 9冊（うち1冊は兄弟分）
そうAグループ 4冊（うち1冊は兄弟分）
- ・ 11月26日 ひよこグループ 2冊
- ・ 12月5日 きりんAグループ 7冊
- ・ 2月12日 3歳クラス 8冊
- ・ 2月26日 4・5歳クラス 10冊

個別配布 計22冊

- 未就学 6件
- 小学生 14件
- 中学生 2件
- 高校生 0件

◆ 配布場所：生駒市障がい福祉課（計21冊）

- 2才 2冊（あすなる）
- 3才 1冊（入園予定）
- 4才 2冊（保育園（加配なし）1、未所属1）
- 5才 1冊（幼稚園1）
- 小1 2冊（特別支援学級1、通常学級1）
- 小2 1冊（通常学級1）
- 小3 2冊（特別支援学級2）
- 小5 3冊（特別支援学級2、西養護1）
- 小6 1冊（特別支援学級1）
- 中1 2冊（特別支援学級2）
- 中2 1冊（特別支援学級+通常学級1）
- 中3 1冊（特別支援学級1）
- 高2 2冊（西養護2）



問い合わせ

- 生駒市障がい福祉課 受付分：**計 6 件**（左記以外：関東の自治体より問い合わせあり見本送付）
（市外者より） 3件
（市内者より） 3件 【内訳：18歳以上 1件、小学生の保護者 1件、中学生の保護者 1件】
- 生活支援センターあすなる 受付分：多数
あすなる通園中・相談対応中の児の保護者より（それ以外からの問い合わせはない）

障害児の支援情報ノート作製

生駒市 来月1日から配布



夫。21日に市内で開かれた説明会では、身体障害者手帳や療育手帳などの等級や交付日、介助が必要な事柄など、具体的な記入例のほか、学校の担当教諭や福祉サービス事務所などの支援者に読んでもらい、後任への引き継ぎに利用するなど

の活用方法が紹介された。

軽度の知的障害の小学5年生の長男がいるという女性(42)は「何度も同じことを説明しなくて済むのはすごく助かる。ノートに書いておけば、それを見た先生たちの手厚い支援を受けられるのでありがたい」と話していた。問い合わせは生駒市障がい福祉課(公0743・74・1111)。

生駒市が作製した「たけまるノート」。必要な情報が確に書き込めるよう工夫されている。生駒市

生駒市は、障害児や発達に不安のある児童を支援するためのサポートブック「たけまるノート」を作製した。12月1日から、市障がい福祉課の窓口や、生活支援センターあすなろ(同市西旭ヶ丘)で配布する。障害児や発達に不安のある子供は進学や転院などのたび、保護者が生活や発達、支援に関する情報を支援者に伝える必要があり、膨大な書類作成が必要になるうえ、支援の「切れ目」

も生じやすい。「たけまるノート」はこうした保護者のニーズをもとに、特別支援学校の教員や福祉の支援者らとともに作製された。子供の20歳までの情報を保護者や学校関係者、医療や福祉の支援者が記入したり、書類をはさんだりして情報を共有できるように工

2014 11/27 産経